



活字と活字鑄造機の変遷

『活字鑄造機創始の頃』

料金で行詰った硬質活字

史談会開催日

昭和44年(1969年)9月26日

■ 語る人

津田 藤吉 氏

(八光活字鑄造機製作所常務取締役)

■ 【津田 藤吉氏略歴】・

・明治29年生。東京出身。早稲田工手学校卒業。大正11年活字鑄造機部品製作に入り、大正13年林栄社に入社。昭和19年八光活字鑄造機に移籍。昭和29年長野県発明振興賞、30年地方発明賞特賞、31年全国発明賞、40年信毎文化賞などを受ける。42年科学技術庁関係の功労者として紫綬褒章を受けた。現在、八光活字鑄造機製作所常務取締役東京工場長。

実は私に話しがあつたときに印刷座談会だと聞いたのですが、史談会ということで、それでは人物の名前から場所から調べなければいけないので、慌てて調べたというわけなのですがこの点ご了承願いたいわけです。お断りしようかとも思ったんですが、津田太郎さんとお話しして、じゃあ2人とも「印刷知らん会」ということにしたらいいじゃないですかと言うことで、私もここで話することになりました。

私が硬質活字で林栄社にまいりましたのが大正13年で、その経緯は、日本タイプライターにおられます加藤健二郎さんが、日本出納計株式会社というのを設立しまして、それは元大黒商会という金銭登録器の会社で、それを買い求めて、芝浦に工場を作りました。そういう関係で私と加藤さんのつながりが出来ましたが、不幸にして資本金が少なかったりしまして上手くいかず解散になりました。それで私は若かったんですが、今の林栄三さん、加藤健二郎さんなどを知っておりまして、金銭登録器の関係で林さんにお世話になったようなわけです。たまたまその話しが加藤さんからきました時に、私は手回しの鑄造機をやっておりました。

ちょうど大地震のために機械などはメチャメチャになって、その時には大川さん、須藤さんの下請けもやっていて、事務用器の製造などやっていました。大震災で焼けまして、する仕事が無かったといたらなんですが、そういったところに林栄社さんからお招きがありましたので、ちょうど渡りに船だということで、お世話になりました。

それから硬質活字を造る機械を一生懸命やりました。そうして6台の機械を造りましたが、さてやってみると、ただ今でも八光でやっておりますが、その当時は機械にポンとピストンがくっつくとか、

種々雑多の苦しみがありましてどうやら出来て売ろうとしたときに、あの時代は一鑄で2本のつもりだったんです。その時鉛活字は1銭で4本だったと思います。そうすると硬質活字は工賃が1日に平均6千本ぐらいで、売る値段はどうかというのと倍でなければ売れない。こんなことではしょうがないと社長に進言しまして、社長も長いことやり惜しかったけれどもやめようかということになり、硬質活字の鑄造をやめました。それで鉛のほうに移ったんです。これが昭和2、3年頃だったと思いますが、機械を鉛活字向けに改造しました。当時1台の機械の値段が20円で鑄型が240円。込物鑄型が60円で、その時5台の機械に着手しました。それを大阪の毎日新聞、凸版印刷、共同印刷、三省堂さんへ納めました。

「活字の1回使用」などという、今日では伝説のような話になるが、最初に1回使用に踏み切ったのは実は自動車の運転手だったんです。当時ダイヤモンド社では今日と同じように旬刊で雑誌を発行しており、自家工場を持っていた。午前中は鑄込んだ活字をケースに入れたり、あるいは返しをしていたんですが、臨時のものやパンフレットなどが出たときには大変なことだったんです。その頃、社長の運転手をやっていた北郷さんという人は、社長の送迎の他は暇が多いので用のない時は活版工場や鑄物室で遊んだり手伝ったりしていたらしい。その時林栄社から新しい鑄造機が入ったが責任者の古い職人ではどういうわけか鑄造機操作がどうも上手く出来ない。ところが門前の小僧さんとやらで北郷さんがいじってみたところ快調に仕事出来る。ヒューズが飛んだらいつのまにか、北郷さあ一人ということになって、結局会社の命令で運転手から鑄造機の責任者に替わるという妙なことになりました。

大体が機械の好きな人だったとみえて、活字の返しということに不合理を感じたということらしいです。解版しては間に合わないという事情もあって、1回使用ということが自然になってきたということです。

当時、熟練工では1日の拾いは1万本といわれ、返しは8千本が普通。大体半日返しをやって半日拾いをやるが多かったのですから、1回使用によって約4倍ぐらいの能率が上がったと言われました。私が用事でダイヤモンド社に行ったとき、「これはいいお土産になりますよ」とこの話を聞いたんですが、林栄社の林栄三社長に話したところ「それはいい」と大変喜んでおりました。これによって活字製造の合理化が大きく進んだということは皆さんご承知の通りです。

